リーディングDXスクール事業 【実践事例】

【取組内容】②情報活用能力の育成



【情報活用能力の計画的な育成】

横浜市にて制定されている「情報教育で育む資質・ 能力 体系表」をもとに、学校版の資質・能力体系 表を作成して各学年で育成すべき情報活用能力を 定めている。これにより、系統的な情報活用能力の 育成が可能になっている。

また、ルールを定めたうえで休み時間等での端末の 利用を認めることで、児童生徒が情報技術のよさに 気づき、学習や生活の中で積極的に活用する機会 を。

《各学年段階での情報活用能力の育成例》

2年生

国語の授業で教科書を写真で取り込み、登場人物の気持ちや行動にそれぞれ違う色の線を引くことで読みを深めた。自分の考えを自分が振り返りやすくするための個別最適な情報整理が可能になった。

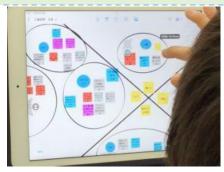
※育成を目指す情報活用能力 文や文章の中から必要な情報を抜き出すことが できる



4年生

社会の授業でごみ処理場見学で見聞きしたことを ホワイトボードソールを用いて共有し、整理・分類す る。共有した気づいたことや疑問に思ったことをX チャートに整理することで、情報が足りていない部 分が可視化され、焦点化して話し合うことができた。

※育成を目指す情報活用能力 集めた情報を同じ種類や仲間に分け、それを表や グラフ・マップに整理することができる



6年生

国語の授業で、自分で選んだ宮沢賢治の作品を 読み深めてライブラリーナビにまとめ、同じ作品を 読んだ友達と交流した。友達の作品やアドバイスを もとに自分の考えを深め、自分のライブラリーナビ に生かすことができた。

※育成を目指す情報活用能力 自他の情報を組み合わせてより適切に伝えるため に情報を再構築することができる

